

ガンジュレ語とガツアメ語の語彙*

乾 秀行

(山口大学)

inui@yamaguchi-u.ac.jp

0 はじめに

本稿は、エチオピア連邦民主共和国内で話されている、オモ系少数言語ガンジュレ (Ganjule) 語及びガツアメ (Gats'ame) 語の音素目録を示すと共に、基本となる動詞活用を例文付きで説明して、最後に基礎データとして約 320 語の語彙リストを提供するものである。

ガンジュレ語は、チャモ湖に浮かぶ小さなガンジュレ島で元々暮らしていたガンジュレ人の言語である。島の水面が上昇したため、島を離れ、現在はアルバミンチから約 25 キロ離れたコンソに向かう幹線道路沿いにあるシェラメレ (Shelemele) 村に 570 家族、子どもを入れると約 2 千人が暮らしている。一方、ガツアメ語は、アバヤ湖南端のゲテム島で暮らしていたガツアメ人の言語である。こちらも水面上昇のため移動し、現在はガンジュレ人とは逆方向の、アルバミンチから約 40 キロ離れたウオライタに向かう幹線道路沿いにあるウガヨ (Ugayo) 村に約 350 家族約 1 千人が暮らしている。シェラメレ村とは車でも 2 時間はかかる距離にある。Ethnologue にはウオライタ名で広く知られているカチャマ語を代表言語名として登録している。しかし本稿で取り上げる二つの先行研究での言語名称がいずれもガツアメ語となっている点、またガツアメ人自身も自分たちの言語をガツアメ語と呼び、ガンジュレ人もカチャマ語という言い方を知らないことから、本稿ではこの表記を採用する。

ガンジュレ語及びガツアメ語は共に、Fleming (1976) に従えば、北オモ系言語の

*本稿のデータは、2009 年 2 月及び 2010 年 2 月にエチオピア連邦民主共和国内のアルバミンチ (Arba Minch) の近郊シェラメレ (Shelemele) 村、及びウガヨ (Ugayo) 村で、現地調査したものである。インフォーマントには、ガンジュレ語に関しては Admasu Wonbara 氏、ガツアメ語に関しては、Qofa Archo 氏にそれぞれお願いした。ここに感謝の意を表したい。なお本稿は、平成 16～22 年度科学研究費基盤研究 (B) 「オモ・クシ系少数言語の調査研究及び地理情報システムを用いたデータベース構築」代表乾秀行 (山口大学) (課題番号 16401008, 19401023) による研究成果の一部である。

中でも、ザイセ (Zayse) 語やコイラ (Koyra) 語などと同じく、東オメト語に分類されている。また、Ethnologue によれば、両者は同じ言語の方言関係にある¹とされており、言語コードを表す ISO639-3 もカチャマーガンジュレ (Kachama-Ganjule) 語として「kcx」が一つだけ与えられている。そこで本稿では、先行研究の語彙リストを再度調査することで、両言語の語彙を比較精査し、Ethnologue の解釈のように同じ言語として捉えてよいかどうか、語彙面から一つの資料提供を行うものである。

以下、1 節で 2 つの先行研究を紹介した後、2 節では先行研究の音声表記、および語彙リストに挙がっている動詞形について説明し、その問題点を指摘する。また 3 節では、先行研究と比較しながら、新たな音素目録を提示すると共に、基本動詞活用を紹介して、例文付きで簡単な文法説明を加えることにする。4 節にまとめを書いた後、最後に 5 節で両言語の語彙リストを載せることにする。

1 先行研究

1993 年から 1994 年にかけて SIL (Summer Institute of linguistics) がエチオピアのアジスアベバ大学エチオピア学研究所 (Institute of Ethiopian Studies) と共同で少数言語の記述調査を行った。ガンジュレ語及びガツアメ語も Brenzinger (1999) に 99 語²、Siebert&Hoeft (2002) に S.L.L.E³ で用いられた 321 語が語彙リストとしてそれぞれ挙げられている。

そこでまず両先行研究における両言語の語彙の一致に関して調べてみると、Brenzinger (1999) では 99 語の中で対応語がない 5 語を除く 94 語のうち、完全一致するものが 44 語 (47%)、類似しているものが 44 語 (47%)、全く異なるものが 6 語 (6%) となっている。それに対して Siebert&Hoeft (2002) では 321 語の中で対応語がない 10 語を除く 311 語のうち、完全に一致するものが 49 語 (16%)、類似しているものが 167 語 (54%)、全く異なるものが 95 語 (30%) となっている。

なお完全一致したものの中には、アクセント表記の異なるものが含まれている。アクセントに関しては、後述するように、これらの言語にとって重要であるけれども、単語の意味の弁別には利用されていないようなので考察外とした。

¹Ethnologue にはガンタ語も方言関係にあると書かれている。ガンタ語は現在のシェレメレ村に隣接するシレに住む Ganta-Kanchame 以外に、そこからはかなり離れた Ganta-Bonke、Ganta-Ocholo、Ganta-Meech'e、Ganta-Afaze の各村で話されている。ガンタ語と両言語の関係については、ガンジュレ人たちもザイセ語やコイラ語に比べると、ガンタ語は近いと感じているけれども、具体的に同じ言語の方言関係にあるという確たる証拠は見つかっていない。また、Brenzinger (1999) には、アバヤ湖のギディチョ島で話されているハッロ (Harro) 語がガツアメ語及びガンジュレ語と同じ言語であると記述されている。ただし、同じ島で話されているクシ系のバイソ (Bayso) 語との二言語併用が進んでいるようである。両言語についても今後の調査が待たれる。

²Bender のエチオピアの言語調査に選んだ 99 語に相当。

³Survey of Little-known Languages of Ethiopia の略。

一方、類似と判断したものの中には、両先行研究が音声具現形をそのまま表記しているため、母音の音色や長短の違いによるものが多く含まれている。特に Siebert&Hoeft (2002) のデータに限っては、記述として精度が低いこともあり、厳密に判断すると類似語彙が極めて少なくなってしまうので、子音変化の音対応として多少とも可能性のあるもの、動詞語幹が類似しているもの、何らかの意味機能を担った増幅成分を取り除くと類似するものなども積極的に含めることにした。

語彙数の違いがあるものの、両研究にこれほど数字が異なるのはなぜであろうか。考えられうる要因としては、インフォーマントの質の違い（質問語彙を理解していないための誤回答等）、調査者の記述の精度（短時間の調査のため十分音声を聞き取れていない等）であろう。特に Siebert&Hoeft (2002) のデータだけを見れば、両言語が方言関係にある同一の言語である可能性は、他の東オメト語の語彙と比較しても、考えにくい⁴。

それとは別に両研究に共通する問題点として、それぞれの言語の音素目録が確定されていないために、様々な音声表記が用いられ、必ずしもそれが条件付けられていない。その結果、完全に一致する語の数が大幅に減っていることが窺われる。また動詞の活用に関しても、形態素分析がなく、文法的な説明が加えられていないことも完全一致を減らしている要因であろう。

そこで本稿では、この S.L.L.E の 320 語の語彙リストを使って再度調査し、音素目録を確定し、動詞活用に関して文法的な説明を加えて語形を統一させることで、比較に耐えうる語彙データを作ることとする。その結果、両言語が同一言語の方言関係にあるのか、それとも別言語なのか、語彙面から資料提供ができれば幸いである。なお、社会言語学的な側面に関しては、本稿では取り扱わないので、両先行研究及び乾 (2004) を参照されたい。

2 先行研究にみられる語彙の検証

この節では、先行研究の語彙を検証し、音声表記上の問題点及び動詞形の特徴について言及したい。なお、音声表記に関しては、2つの先行研究のうち比較的安定した音声記述がされていて、より信頼性が高いと思われる Brenzinger (1999) の表記を中心にみていくことにする。

⁴乾 (2004) ではガンジュレ語の社会言語学的研究を行ったが、結論を導き出す過程において Siebert&Hoeft (2002) の語彙データに多少影響を受けたことも事実である。本研究はその反省に立って語彙データを再度調査するものである。

2.1 母音

Brenzinger (1999) のガツァメ語 101 語⁵及びガンジュレ語 100 語⁶の語彙に現れる母音の種類と出現数を示すと、以下の表 1 のようになる⁷。なお本稿では Brenzinger (1999) に倣って長母音表記を重ね書きすることで表す。

表 1: Brenzinger (1999) の母音出現数

vowel	a	i/i	u/u	e/ε	o/o	aa	ii	uu	ee/εε	oo/oó
Gats'ame	55	29/1	26/1	8/25	6/25	22	4	8	1/4	0/4
Ganjule	70	25/0	18/0	7/27	8/21	22	4	6	1/3	1/6

現れ方から気になる点としては、母音の開口度に関して半狭母音 [e] 及び [o]、半広母音 [ε] 及び [ó] が区別されて出てくることである。また、その出現数を見ると、半狭母音の方が半広母音よりも遙かに少なく、他の短母音 [a]、[i]、[u] と比べてみてもその出現頻度が極端に低いことがわかる。つまり、問題点としてガツァメ語及びガンジュレ語において半狭母音と半広母音が音素として弁別されているのかどうか、ということである。そこで注意深く Brenzinger (1999) の両言語の表記を見ていくと、次の表 2 のような例が見つかる。

表 2: Brenzinger (1999) の半狭母音／半広母音の例

NO	English	Gats'ame	Ganjule
5	big	ar ² ó	ar ² ó
13	cold A	tóyya	tóyya
77	stand V	² éε ² -á	ee ² -á
82	tail	naats'é	naats'é
83	thin	láale	láale
86	thou, you SG	néna	nena

そこで仮に両言語で半狭母音と半広母音が弁別され、両者の間に音対応が存在すると仮定してみると、NO.5 と NO.13 は互いに反例となり、また NO.77 及び

⁵99 語のうち、データが欠落している 4 語を除く 95 語の中に現れる語（複数提示含む）を対象にした。

⁶99 語のうち、データが欠落している 2 語を除く 97 語の中に現れる語（複数提示含む）を対象にした。

⁷ガツァメ語の NO.95[²áalamba]('what')の中に唯一 [a] という母音が出てくる。しかし声門閉鎖音を介さずに（異なる）母音が隣接する例が他にないので、ここではこれを誤植と判断してすべて [a] と解釈して処理した。

NO.82 の音対応は NO.83 及び NO.86 によって反証されることになる。つまり、これらのデータは、ガツアメ語及びガンジュレ語に半狭母音と半広母音が音素として対立していないことを証明しているのに等しい。

それ以外の母音では、[i] 及び [u] がガツアメ語にそれぞれ一回出てくるが、これもおそらく音素としては [i] 及び [u] と解釈して問題ないであろう。

以上の点を踏まえて、母音に関しては半狭母音と半広母音が弁別されるかどうかを中心に調査を行うことにする。

2.2 子音

子音についても、Brenzinger (1999) の記述を中心に見ていくことにする。まず Brenzinger (1999) に出てくる子音のリストを両言語に分けて表すと以下の表3のようになる。

確かに両言語の子音目録は非常に似ているが、いくつかの音素に関して、若干の揺れが見受けられる。この記述が音素レベルのものなのかどうか、確かめる必要がある。そこでこの子音目録を見て、現れ方に関して気になる点を列挙すると次の通りである。

表 3: Brenzinger (1999) の子音目録

	Gats'ame	Ganjule
無声音	p, t, ts, k, ?	p, t, ts, k, ?
有声音	b, d, ð, g	b, d, ð, g
放出音	s', t', ts', tʃ', k'	p', t', ts', tʃ', k'
入破音	β, d	β, d
摩擦音	φ, s, z, ʃ, γ, h	φ, s, z, ʃ, h
鼻音	m, n, ŋ	m, n, ŋ
流音	r, l	r, l
半母音	j, w	j, w

1. 両言語ともに、放出音/tʃ'/に対応する無標の無声音/tʃ/が現れていない。
2. 歯音の放出音の現れ方に揺れがある (/s', t', ts'/)。通常歯音の放出音は/t'/で現れる言語と/ts'/で現れる言語に分かれる⁸。

⁸/s'/の表記はアムハラ語に出てくるが、実際の音は [ts'] である。

3. ガツアメ語に現れる摩擦音/ɣ/は/g/が母音間で弱化した可能性が高く、音素として存在するか疑わしい。
4. 鼻音/ŋ/は後続子音が軟口蓋破裂音の場合にのみに現れており、音素として存在するか疑わしい。

Brenzinger (1999) の語彙数は約 100 語と限られているために、すべての子音音素が出てきていない可能性が十分考えられる。以上、4つの問題点を中心に調査を行うことにする。

2.3 動詞活用

2つの先行研究の記述で最も異なる点は、動詞の表記方法である。Brenzinger (1999) がおそらく語幹と思われる形で表記しているのに対して、Siebert&Hoeft (2002) では、アムハラ語を介してインフォーマントに質問したことで、基本形である3人称男性の形で統一されている。以下の表記を比較してもらいたい。

表 4: Brenzinger (1999)(左) / Siebert&Hoeft (2002)(右)

	Gats'ame	Ganjule		Gats'ame	Ganjule
come	y-ɔɔa	y-ɔɔa	bite	'sa:tsokoin	'sa:tsokɔŋ
drink	úff-a	úff-a	buy	'wo:wakoin	'wo:ŋgakɔŋ
go	hant'-á	haŋg-á	come	'j:takoin	'j:taɔŋ
eat	m-iyá/múuda	m-íiyá	eat	'mu:tekoin	'mo:da
say	híi-daa	híi-da	go	'hamakoin	'haŋgakɔŋ

Brenzinger (1999) の動詞形は {-a} の形が相対的に多く現れ、これを語幹の基本形と見なして差し支えないようであるけれども、表中にあるように {-ɔɔa}/{-iyá} や {-da} という形も現れ、それらに対して何も説明が加えられていない。また語アクセントの有無及びアクセント位置の違いに関しても特に説明もない。一方、Siebert&Hoeft (2002) は形態素の切れ目を表すハイフンは出てこないけれども、ガツアメ語で {-koin}、ガンジュレ語で {-kɔŋ} という形態素を取り出すことができるようである⁹。この点を踏まえて、調査では動詞活用について形態素の切れ目及び派生接辞の機能を分析することにする。

⁹両言語の語末の違いは単なる音声表記の問題であろう。

3 本調査

3.1 両言語の調査方法

調査は2年にわたって実施した。第1回調査は2009年2月24日から26日の3日間行った。乾(2004)でガンジュレ語の調査を行った経緯から、まずガンジュレ語からインフォーマント捜しを行った。ガンジュレ人が住むシェレメレ村の行政機関の事務所に行き、そこで10名程度のガンジュレ語母語話者に先行研究の資料に基づいて約50語の基礎語彙の質問を行い、その際最も的確にガンジュレ語の語彙を答えることができた Admasu 氏(2009年調査当時49歳)にインフォーマントをお願いすることにした。乾(2004)でも論じたけれども、ガンジュレ人たちは必ず自分たちの言語が子どもの世代でも完全に保持されていると答える。しかし今回同席していた若い世代のガンジュレ人の回答には、周辺言語(ガンタ語やザイセ語)との語彙の混同が見受けられ、ガンジュレ語を正確に話せなくなっているという印象を受けた。

調査は先行研究同様、エチオピアの作業語であるアムハラ語を介して行った。調査の際には、筆者のバスケット語のインフォーマントでもある Fiqre 氏¹⁰が立ち会い、調査に協力した。丸2日間の調査で目標にしていた320語の収集を終え、最後にすべての語に関してICレコーダで録音した。

3日目に今度はガツアメ語母語話者が暮らすウガヨ村に、ガンジュレ語母語話者 Admasu 氏に同行してもらって訪れたところ、ガツアメ語を話す村人約30人が集まり、そこでガンジュレ語同様にアムハラ語を介して質問した。村人たちが相談して最終的に代表の Qofa 氏が答えるという方式を採用したが、先行研究の結果とは大きく異なって、大半の語がガンジュレ語と全く同じであった。ガンジュレ語と異なる語彙で回答した場合は、それを書き取った後、ガンジュレ語の語彙も使うかどうか質問したところ、大半の語彙はそれも使うと回答した。調査は比較的スムーズに進み、約2時間あまりの調査で目標の320語すべての聞き取り調査が終了した。ガツアメ人もガンジュレ人同様自分たちの言語が子どもの世代でも完全に保持されていると答えたが、その点についても最後にもう一度言及することにする。

以上のような調査結果から、以下の議論では両言語は語彙の面ではほぼ同じであるという前提で話を進めることにする。つまり、将来はともかく、語彙面において両言語は現時点ではほぼ同じ語彙を共有していると判断できるからである。

さて第2回調査は2010年2月22日から23日の丸2日間午前と午後に分けてそれぞれ3時間ずつ、ガンジュレ語インフォーマント(1回目と同じ Admasu 氏)

¹⁰バスケット語についても彼に以前同様の調査を行ったこともあり、調査内容及び320語の意味に関して熟知しているので、作業がスムーズに進んだ。

に、初日は前年度の調査語彙を再度確認した後、ガンジュレ語とガツァメ語で異なっている語彙の原因を調べた。その結果、大半の異なる語彙に関して、両言語において語彙が元々異なるのではなく、類義語であったり、ガツァメ語の近隣有力言語（ウォライタ語）の影響でガツァメ人がガツァメ語（あるいはガンジュレ語）本来の語彙ではない語彙を答えていたためであることがわかった。二日目は、もう一つの調査目的である動詞活用について調査を行い、両先行研究で互いに異なる動詞形の意味を解明した。

3.2 音素目録

母音に関しては、Brenzinger (1999) で問題になった半狭母音と半広母音を音素として弁別しているのかどうかを中心に調査を行った。その結果、ガンジュレ語インフォーマントは予測通り半狭母音と半広母音を音素として弁別していないことを確認した。つまり、ガンジュレ語及びガツァメ語は共に、5母音体系でそれが長短の区別を持つという特徴を持っている。このことは周辺のオモ系諸言語が母音に関して5母音であることと照らし合わせても、極めて妥当な解釈と思われる。

表 5: Ganjule/Gats'ame の母音体系

i	u	ii	uu
e	o	ee	oo
a		aa	

一方、子音に関しては、Brenzinger (1999) の問題点について、それぞれ語彙調査を進める中で、確認作業を行った結果、以下のような結論に達した。

1. 無声破裂音の系列に /ɣ/ が存在した。：放出音に対応する無標の無声破裂音は、daatʃé (56:“basket”)、íʃe (120:“brother”)、lankúʃ(103:eight) など、数多く現れることを確認した。
2. 歯音の放出音は一種類 /ts'/ しか存在しなかった。：歯音の放出音の /ts'/ は、báats'a (18“beard”)、koots'é (144:“beehive”)、sáats'okoine (181:“bite”) など数多く現れるが、/s'/ および /t'/ は確認できなかった。ただし、アムハラ語等からの借用語の場合、バスケット語にも同様の例があるけれども、/t'/ が現れる可能性は残されている。
3. 摩擦音の系列に /ɣ/ は確認できなかったが、新たに /ɣ/ が存在した。：摩擦音

の /y/ は確認できず、やはり現れるとしても /g/ の異音と考えるべきであろう。一方、 /z/ が 2 例であるが、 za (170: “fear”) および zill (244: “green”) に現れた。

4. 鼻音の系列は /m/ と /n/ の 2 つである。: 鼻音系列に現れる [ŋ] は後続子音の調音位置に同化したものであり、すべて条件異音として考えられ、音素として設定する必要がないことを確認した。

以上より、本稿によってガンジュレ語及びガツァメ語の子音は以下の表 6 のように全部で 27 音素から成ることが明らかになった。破裂音の系列は、周辺オモ系諸言語と同じく、無声音、有声音、放出音、入破音の 4 系列である。

表 6: Ganjule/Gats’ame の子音目録

無声音	p, t, ts, tʃ, k, ʔ
有声音	b, d, dɛ, g
放出音	tsʰ, tʃʰ, kʰ
入破音	β, d̪
摩擦音	ɸ, s, z, ʃ, ʒ, h
鼻音	m, n
流音	r, l
半母音	j, w

3.3 動詞活用

ガンジュレ語（及びガツァメ語）の動詞活用の基本は、現在あるいは未完了と過去あるいは完了のテンス・アスペクトによって区別されている¹¹。また動詞には人称語尾がつく。そこでまず独立人称代名詞について確認しておく、1 人称から 3 人称までの人称と単数と複数の数に分かれて、表 7 のようになる。

この独立人称代名詞とほぼ同じ形が現在あるいは未完了の語幹プラス {-ko} の人称語尾として、人称にとって最も基本となる話し手である 1 人称単数、聞き手である 2 人称単数および話し手と聞き手を一つに扱う 1 人称複数 (包括人称) において現れる。これは動詞人称語尾の起源が独立人称代名詞であることを最も鮮明に示した好例であろう。

人称語尾の調査結果を示すと表 8 のようになる。これを見ると、現在あるいは

¹¹ テンスを基準にしているのか、アスペクトを基準にしているのか、今回の調査では確認できなかった。本稿では現在 / 未完了 (PRES / IMPF) と過去 / 完了 (PST / PF) という表記を用いることにする。

表 7: 独立人称代名詞

	SG	PL
1	tana	nuna
2	nenā	inina
3m	esa	usuna
3f	iso	

は未完了を表す形態素として {-ne} または {-n}、過去あるいは完了を表す形態素として {-de} または {-d} を取り出すことができる。つまり、テンス・アスペクトに関して鼻音性特徴の有無による {-n/-d} の交替をしている。

表 8: 人称語尾

PRES / IMPF			PST / PF		
	SG	PL		SG	PL
1	-tajne/-taane	-nuune	1	-tajde	-nujde
2	-neene	-inine	2	-nejde	-ujde
3m	-ejne	-uune	3m	-ejde	-ujde
3f	-iine		3f	-iide	

ところで Siebert&Hoefl (2002) で動詞の統一形として出てきた {-koine} の正体であるが、これは語幹プラス {-ko} に 3 人称男性の現在あるいは未完了を表す人称語尾 {-ejne} がくっついた形の融合形（短縮形）であることをガンジュレ語インフォーマントに確認した。このことは、yelakoine < yelako iine (113:“bear”) のみ 3 人称女性形の長母音 [ii] が現れていることから確認できる。

語幹-ko-ejne > 語幹-koine

さて今回収集した動詞は全部で 69 語で、類義語及び同義語を含めると両言語から全部で 81 の動詞形を取り出すことが可能である。それらの語幹の形を分類してみると以下の表 9 のようになる。

ただし {-ko} の前の母音で機械的に分類したため、gayluttokoine (256:“fight”) のように gaylakoine に {-utt} という相互を表す派生接辞¹²が付くことで、見かけ上 o 語幹になったものもごく少数含まれている。それでも Brenzinger (1999) の

¹²{-utt} は相互以外に、受身、自発などの機能を有する。

表 9: 動詞語幹

a 語幹	51
o 語幹	29
i 語幹	1

語幹解釈とは異なって、o 語幹がかなりの割合で存在することを確認できた。また hidikoine (116:“say”) が唯一 i 語幹の例として見つかった。また派生接辞に関しては、{-utt} 以外にもあるかもしれないし、別の何らかの要因で語幹が変わっている可能性もある。このように語幹に関しては、今後検討しなければならない問題がいくつか残されている。そのため、動詞形を動詞語幹で表すのではなく、暫定的に Siebert&Hoeft (2002) に倣って 3 人称男性現在あるいは未完了の短縮形で表すことにしておく。

なお、これらの基本的テンス・アスペクトとは別に、人称に関係なく {-kine} を付けることで未来時制、{-kidde} を付けることで過去時制をそれぞれ表し、人称語尾による区別ができなくなっている時制もあるようである。また、{-gako-ejene} (3 人称男性) のような進行相も存在する。しかし、今回の調査では詳細な条件を確認するには至らなかったため、今後の研究課題としておく。

最後に、Brenzinger (1999) の 99 語に含まれる動詞 16 語を対象に例文を提示する。内訳は a 語幹が 11、o 語幹が 4、i 語幹が 1 となっている。これによって概略ガンジュレ語及びガツァメ語の基本的な動詞活用及び文法構造の骨格を窺い知ることができるであろう。もっとも、形態素分析は十分ではなく、詳細な文法構造の解明は今後の課題としておくので、注釈以上の説明はここでは立ち入らない。なお () で示した数字は、語彙リストの番号 (S.L.L.E の番号) である。

- (1) k'ammu kana-i shuuro saats'o-ko-ejde.
yesterday dog-NOM cat-ACC bite-KO-3SG.M.PST/PF
昨日犬が猫を噛んだ。
- (2) k'ammu tʃ'eema botʃe-i ts'uugutto-ko-ejde.
yesterday night mountain-NOM burn-KO-3SG.M.PST/PF
昨晚山が燃えた。

表 10: 動詞

1.(No.181)	bite	sáats'okoine	9.(No.160)	kill	wodákoine
2.(No.200)	burn	ts'úugokoine	10.(No.320)	know	érákoine
3.(No.180)	come	jóotakoine	11.(No.116)	say	hidíkoine
4.(No.83)	drink	ufókoine	12.(No.23)	see	béetakoine
5.(No.82)	eat	múutakoine	13.(No.195)	sit	útoine
6.(No.76)	give	ímakoine	14.(No.307)	sleep	gehákoine
7.(No.320)	go	hámakoine	15.(No.196)	stand	ée'akoine
8.(No.5)	hear	siitakoine	16.(No.164)	swim	daakádfakoine

- (3) hanzo Admasu-i makina-na Shelemela- ϕ a Arba Minch joota-ko-ejde.
 today Admasu-NOM car-INSTR Shelemela-ABL Arba Minch come-KO-3SG.M.PST/PF
 今日アドマスは車でシェレメレからアルバミンチに来た。
- (4) tan-i waats ufo-ko-tajde.
 1SG-NOM water-ACC drink-KO-1SG.PST/PF
 私は水を飲んだ。
- (5) gim²u es-i buddeena muuta-ko-ejne(muutakoine).
 afternoon 3SG.M-NOM injera-ACC eat-KO-3SG.M.PRES/IMPF
 午後彼はインジェラを食べる。
- (6) Admasu-i be matf-isi pude ima-ko-ejde.
 Admasu-NOM REF.POSS wife-DAT flower-ACC give-KO-3SG.M.PST/PF
 アドマスは自分の妻に花を与えた。
- (7) hatte nun-i Ganjule hama-ko-nuune.
 now 1PL-NOM Ganjule go-KO-1PL.PRES/IMPF
 今我々はガンジュレに行く。
- (8) tan-i e adda-i haj²-eesa siita-ko-tajde.
 1SG-NOM 3SG.M.POSS father-NOM die-PF.REL-ACC hear-KO-1SG.PST/PF
 私は彼の父が死んだことを聞いた。
- (9) Admasu-i ha kana-za wodfo-ko-ejde.
 Admasu-NOM this dog-DEF.ACC kill-KO-3SG.M.PST/PF
 アドマスはこの犬を殺した。

- (10) tan-i Gada Bonk'e era-ko-tajne/taane.
 1SG-NOM Gada Bonk'e know-KO-1SG.PRES/IMPF
 私はガダボンケを知っている。
- (11) k'ammu Fik're-i Admasu hajga jo-a hidi-ko-ejde.
 yesterday Fiqre-NOM Admasu-ACC here come-INF say-KO-3SG.M.PST/PF
 昨日フィクレはアドマスにここに来るように言った。
- (12) Admasu-i lago meen-ide Shelemele saɸara gidda beeta-ko-ejde.
 Admasu-NOM many buffalo-PL.ACC Shelemele village in see-KO-3SG.M.PST/PF
 アドマスは多くの動物をシェレメレ村を見た。
- (13) tan-i ojde gala uto-ko-tajde.
 1SG-NOM chair on sit-KO-1SG.M.PST/PF
 私は椅子の上に座った。
- (14) tan-i karee dunkan gidda geha-ko-tajde.
 1SG-NOM outside tent in sleep-KO-1SG.PST/PF
 私は野外でテントの中で寝た。
- (15) tan-i ojde gala-ɸa dendi-ee'a-ko-tajde.
 1SG-NOM chair on-ABL stand up-KO-1SG.PST/PF
 私は椅子から立ち上がった。
- (16) Admasu-i waatsi gidda daakadda-ko-ejne(daakaddakoine).
 Admasu-NOM river in swim-KO-3SG.M.PRES/IMPF
 アドマスは川で泳ぐ。

4 終わりに

本稿では、先行研究の語彙調査を再検証し、ガンジュレ語とガツアメ語の語彙調査を行い、両者が同じ言語かどうかについての語彙面及び動詞活用からのデータを提供した。その結果、両者は元々同じ言語であったと思われるだけの十分な語彙的一致が見られた。アバヤ湖及びチャモ湖に浮かぶそれぞれの島の人々は、水路を使って自由に交流していたことを物語る結果である。ただし、現在距離にして60キロ以上離れたところに別々に暮らし、しかも両者の交流は陸路のみとなり、共に隣接する言語の影響を若年層を中心に徐々にではあるが受けていることが語彙面からは窺われる。もっとも文法構造の変化に繋がるような形態面（動詞活用）にまでその影響は出ていないので、当面は同じ言語の方

言関係にあると考えて差し支えないであろう。

なお、今回はガンジュレ語の語彙調査及び文法調査を中心に行ったので、ガツアメ語の側からも検証する必要があるであろう。また、同じく方言関係にあるとされるハッロ語及びガンタ語についても、同様の語彙及び文法調査をすることで、それらの言語との同族性および親近性が明らかになるとと思われる。

5 語彙リスト

最後に本稿で用いた語彙リストを挙げておく。NoはS.L.L.Eの番号に相当し、英語のアルファベット順に並んでいる。なお、Brenzinger (1999)の調査語彙 (Benderの99語)には、Noの後ろに「*」を付けておく。

アクセントは高低アクセントで、語自体の弁別性はほとんどないけれども、異なるアクセントで発音すると許容されないので注意を要する。また、語の意味に関して、今回調査で明らかになった範囲ではあるが、必要に応じて脚注をつけているので参照されたい。

No	English	Ganjule	Gats'ame
320*	all	uddá	uddá
320	and	tukke ni jai ni	tukke ni jai ni
129	animal	bó'ó	bó'ó
137	ant	gazgázo	gazgázo
251	arrow	dóze	dóze
205*	ashes	muk'ó	muk'ó
118	ask	ójɟ'okoine	ójɟ'okoine
320	at	/	/
51	axe	gánde	gánde
32	back	datté	datté
257	bad	íta	íta
182	banana	múuze	múuze
179	bark, it barks	úuwakoine/bóɟ'okoine	úuwakoine/bóɟ'okoine
52*	bark, of tree	pok'ó	pok'ó
56	basket	daatfé	daatfé
135	bat	libalíbo ¹³	libalíbo
304	bathe, he bathes	ɟógottokoine	ɟógottokoine
113	bear, she bears	jelákoine	jelákoine
18	beard	báats'a	báats'a
144	beehive	koots'é	koots'é
29*	belly	gawó	gawó
265*	big	ar'ó	ar'ó
152*	bird	kaɸó	kaɸó
181*	bite, it bites	sáats'okoine	sáats'okoine

¹³'ɟémakaɸo' という言い方もある。'ɟéma'は「夜」、'kaɸo'は「鳥」の意で、「コウモリ」になる。

No	English	Ganjule	Gats'ame
242*	black	karts	karts
46*	blood	suuts	suuts
7	blow, he blows	uφúntsakoine ¹⁴	uφúntsakoine
44*	bone	mek'éte	mek'éte
250	bow	dóze	dóze
28*	breast	đants	đants
230	bridge	zoggá	zoggá
120	brother	íťe	íťe ¹⁵
246	brown	godarettá ¹⁶	godarettá
171	buffalo	meenó	meenó
200*	burn, it burns	ts'úugokoine	ts'úugokoine
48	bush	ť'últa	ť'últa
33	buttocks	ts'unné	ts'unné
217	buy, he buys	wóomakoine ¹⁷	wóomakoine
229	canoe	zabá	zabá
174	cat	júuro	júuro
151	chicken	lúko	lúko
126	chief	danná	danná
119	child	faató	faató
17	chin	jak'ála	jak'ála
153*	claw	ts'ugúnts	ts'ugúnts
211	clay	(otá)sáka	(otá)sáka
296	clothing	ma'ó	ma'ó
222*	cloud	đumá	đumá
233*	cold, adjective	tójja	tójja
202	cold, of air, weather	tójja	tójja
180*	come, it comes	jóotakoine	jóotakoine
81	cook, he cooks	káts'okoine	káts'okoine
88	cough, he coughs	k'úφakoine	k'úφakoine
184	count, he counts	táagakoine	táagakoine
148	cow	miis	miis

¹⁴火を消す場合の「吹く」の意。風船等をふくらます時は、'φuggakoine'を使う。

¹⁵'angús'は「兄」、'bars'は「弟」。

¹⁶'tukke mala'で「コーヒーのような」の意。

¹⁷'zal'akoine'が「売る」の意。また、両方の意味を併せ持った'wongákoine'は「売り買いする」の意。

No	English	Ganjule	Gats'ame
169	crocodile	jéǂǂo	jéǂǂo
262	crooked	dóoma	dóoma
84	cup	wanǂǂ'á	wanǂǂ'á
74	cut, he cuts	íits'okoine	íits'okoine
10	dance, he dances	káa'akoine	káa'akoine
227	dew	molóle	molóle
93*	die, he dies	háǂ'okoine	háǂ'okoine
62	dig, he digs	bóokakoine	bóokakoine
299	dirty, of clothing	íita	íita
176*	dog	kaná	kaná
149	donkey	harré	harré
189	door	ibó	ibó
284	down	jek	jek
83*	drink, he drinks	ufókoine	ufókoine
11	drum	darbé	darbé
298*	dry, of clothing	méla	méla
249	dull	dúl'uma	azalla ¹⁸
213	dust	ts'úure	ts'úure
4*	ear	wafé	wafé
209	earth, ground	saká	saká
82*	eat, he eats	múutakoine	múutakoine
78*	egg	ǂuǂúle	ǂuǂúle
103	eight	lankúǂǂ	lankúǂǂ
35	elbow	kurmajlé	kurmajlé
302	empty	méla	méla
191	enter, he enters	gélakoine	gélakoine
192	exit, he exits	késokoine	késokoine
22*	eye	áaǂe	áaǂe
21	eyebrow	kúukunts	kúukunts
92	fall, he fall down	úngokoine	úngokoine
57	farm, field	wóota	wóota
77*	fat, grease	handá	handá
115*	father	addá	addá

¹⁸ガツァメ語話者のみ答える。ウォライタ語の影響と思われる。

No	English	Ganjule	Gats'ame
170	fear	ʒaf	ʒaf
155	feather	pangé	pangé
318	fence	k'éʃa	k'éʃa
282	few	guuts	guuts
256	fight, he fights	gájluttokoine ¹⁹	gájluttokoine
41	fingernail	ts'ugúnts	ts'ugúnts
199*	fire	tamá	tamá
162*	fish	moló	moló
163	fishnet	mólomárrabe	molómárrabe
100	five	ifítʃ	ifítʃ
69	flower	púde	púde
139*	fly, insect	wuzúnts'e	wuzúnts'e
156	fly, it flies	píradakoine	píradakoine
95	fool	bóoza	eeja ²⁰
36*	foot	túke	túke
40	forearm	kúʃe	kúʃe
3	forehead	sinó	sinó
99	four	ojd	ojd
165	frog	kopó	kopó
70	fruit	/	/
303	full	kúme	kúme
130	fur	(bóʔo) itúnts	bóʔo ikise ²¹
300	garbage	píte	píte
319	gate	ibó	ibó
76*	give, he gives	ímakoine/íngakoine ²²	ímakoine/íngakoine
320*	go	hámakoine/hangákoine ²³	hámakoine/hangákoine
146	goat	deef	deef
127	God	wónto	wónto

¹⁹'gaylakoine' に {-utt} という相互形が付いた形、他に 'óluttokoine' も「(戦争などで) 戦う」の意。

²⁰ガンジュレ語と同じく 'bóoza' がオリジナルの形と思われるが、ガツアメ語話者はこう回答した。

²¹ウォライタ語の影響と思われる。オリジナルはガンジュレ語と同じ 'itúnts' である。'ite' は「皮 (skin)」の意。

²²両者の意味の違いはない。

²³両者の意味の違いはない。

No	English	Ganjule	Gats'ame
214	gold	wórk'e	wórk'e
258*	good	ló'o	ló'o
85	gourd	gozé	gozé
66*	grass	maatá	maatá
94	grave	boosá	boosá
244	green	zill ²⁴ á	zillá
31	guts	gawwó	gawwó mijí ²⁵
1*	hair of head	bináana	bináana
39*	hand	kútfé	kútfé
279	hard	osáts	gooba ²⁶
59	harvest, noun	wóota	wóota
310	he	ésa	ésa
2*	head	ómma	ómma
5*	hear, he hears	síitakoine	síitakoine
45*	heart	muts'uró	wozana ²⁷
269	heavy	ar'ó	ar'ó
293	here	hájga	hájga
79	hide, he hides	k'óttakoine	áatfokoine ²⁸
150	hit, he hits	ítf'akoine/gújdokoine ²⁹	ítf'akoine/gújdokoine
61	hoe	jóle	jóle ³⁰
186	hold, he holds	ájφokoine	ájφokoine
145	honey	jída	jída
143	honeybee	zizó	zizó
147*	horn	baké	ufúme
201	hot, of water	mítjfa	φentésa ³¹
188	house	keets	keets
294	how	wajdí	wajdí
107	hundred	ts'eet	ts'eet

²⁴他に 'maatamala' 「葉っぱのような」という言い方もある。

²⁵'mijí' はお腹の中の要素全部の意。'gawwó' だけで十分である。

²⁶ガンジュレ語と同じく、'osáts' がオリジナル形。ウォライタ語、ガンモ語の影響と思われる。

²⁷ウォライタ語、ガンモ語の影響と思われる。

²⁸'k'óttakoine' と同じ意味。ガンジュレ語でも使うことはある。

²⁹'ítf'akoine' は「手で殴る」、'gújdokoine' は「棒で叩く」の意。

³⁰'dooma' はアムハラ語からの借用語。

³¹ガンジュレ語に 'φentakoine' 「沸騰する」という動詞はある。

No	English	Ganjule	Gats'ame
80	hungry, he is hungry	najjé	najjé
132	hunt, he hunts	ǰánkitakoine	ǰánkitakoine
131	hunter	ǰankáǰts	ǰankáǰts
175	hyena	tolkó	tolkó
308*	I	taná	taná
316	jump he jumps	ts'óogakoine	ts'óogakoine
160*	kill	wodákoine	wodákoine
34*	knee	bó'ǰnt	bó'ǰnt
247	knife	mǰǰá	mǰǰá
320*	know	éراكoine	éراكoine
235	lake	bagáde	bagáde
86	laugh he laughs	mǰǰ'ǰ'akoine	mǰǰ'ǰ'akoine
54*	leaf	wǰǰé	wǰǰé
275	left, left side	hadúrs	hadúrs
173	leopard	wórba	wórba
305	lie, he lies down	gódettokoine	gódettokoine
270	light A(N)	ǰǰkó	láaǰa ³²
225	lightning	zeelúnts	zeelúnts
12	lip	poǰoró	poǰoró
177	listen	sǰitakoine	sǰitakoine
47*	liver	ma'ǰé	ma'ǰé
263*	long	galála	galála
136*	louse	ǰ'úutǰ	ǰ'úutǰ
60	machete	ǰ'úggo	ǰ'úggo
64	maize	badalá	badalá
194	make, he makes	hántakoine	hántakoine
108*	man	ats	ats
281*	many	lagó	lagó
219	market	gaajá	geeǰá
111	marry	eǰákoine/ékkakoine ³³	eǰákoine/ékkakoine
73*	meat	aǰó	aǰó ³⁴
216	money	miiǰé	miiǰé

³²ウォライタ語、ガンモ語の影響と思われる。

³³基本の意味は「(嫁を)取る」で 'gelakóine' は「(女性が)嫁ぐ」の意。

³⁴aǰóがオリジナル。ウォライタ語の影響と思われる。

No	English	Ganjule	Gats'ame
172	monkey	galʈʂ	galʈʂ
238*	moon	agúnna	agúnna
117	mother	índo	índo
220*	mountain	botʃé	botʃé
6*	mouth	baadé	baadé
210	mud	urk'á	urk'á
128*	name	sunts	sunts
260	narrow	kúnʔe ³⁵	kúnʔe
30	navel	gulʔá	gulʔá
26*	neck	goné	goné
157	nest	kaʔó keets	kaʔó keets
272*	new	kílle	kílle
237*	night	ʈʂ'eemá	k'ama ³⁶
104	nine	tantsínde	tantsínde
278*	no	báa/maak'áawa ³⁷	báa/maak'áawa
274	none	bizzíni báa	bizzíni báa
19*	nose	kunké	kunké
271	old	ʈʂ'íma	ʈʂ'íma
96*	one	bizzó	bizzó
320*	other	péda	péda
187	path	túke óge	túke óge
133	pig	girmé	girmé
63	plant, he plants	túkokoine	túkokoine
198	pot	óta	óta
301	pour, he pours	dúuk'akoine	dúuk'akoine
315	pull, he pulls	góʈʂakoine	góʈʂakoine
314	push, he pushes	úrʔokoine	úrʔokoine
223*	rain	íra	íra
224	rainbow	iráats'imajfa	malello ³⁸
159	rat	eʈʂ'ére	eʈʂ'ére
243*	red	zoʔó	zoʔó

³⁵他に 'ts'uum' という語があり、「極めて狭く、通れない」場合に使う。

³⁶ウオライタ語の影響と思われる。

³⁷'báa' が「ない」、'maak'áawa' が「そうではない」の意。

³⁸ガンジュレ語では、「小さなナイフ」の意で、「大きなナイフ」は 'majfa' である。

No	English	Ganjule	Gats'ame
123	rest, he rests	káts'akoine	Jímpakoine ³⁹
276	right	ufítʃ	ufítʃ
71	ripe	kats'éesa	kats'éesa
228	river	waats	waats
317*	road	ogé	ogé
53*	root	ts'abó	ts'abó
55	rope	wodoró	hurde
72	rotten	sangéesa	sangéesa
122	run, he runs	wóts'akoine	wóts'akoine
15	saliva	tʃ'utʃ	tʃ'utʃ
197	salt	sógo	sógo
212*	sand	ʃeetʃ'é	ʃeetʃ'é
37	sandals	sulíppare	sulíppare
116*	say, he says	hidíkoine/híttakoine	hidíkoine/híttakoine
161	scorpion	giité	giité
320	scratch, he scratches	k'áatʃ'okoine	k'áatʃ'okoine
23*	see, he sees	béetakoine	béetakoine
58*	seed	dítʃa	dítʃa
218	sell, he sells	zál'akoine	zál'akoine
102	seven	láapu	láapu
168	sew, he sews	síkk'akoine	síkk'akoine
248	sharp	k'ára	k'ára
254	shield	gondálle	gondálle
264	short	háta	háta
27	shoulder	kelé	kelé
91	sick, he sickens	hárgakoine	hárgakoine
215	silver	bíra	bíra
9	sing, he sings	káakoine	káakoine
124	sister	mítʃo	mítʃo
195*	sit, he sits	útoine	útoine
101	six	izúppu	izúppu
42*	skin	ifilá	ifilá
236	sky	aʃá	aʃá

³⁹ ウォライタ語の影響と思われる。

No	English	Ganjule	Gats'ame
307*	sleep, he sleeps	gehákoine	gehákoine
266*	small	guuts	guuts
20	smell, she smells	sínk'usakoine	sínk'usakoine
204*	smoke	tʃ'úuwa	tʃ'úuwa
208	smooth	líik'o	líik'o
158*	snake	ʃoof	ʃoof
90	sneeze, he sneezes	déʃakoine	déʃakoine
280	soft	ʃúgo	laale ⁴⁰
252	spear	toora	toora
140	spider	ʃaajé	ʃaajé
89	spit, he spits	tʃ'útokoine	tʃ'útokoine
196*	stand, he stands	éé'akoine	éé'akoine
239*	star	ts'oolínte	ts'oolínte
75	steal, he steals	kájsakoine	kájsakoine
206	stick	kalló	kalló
207*	stone	ʃutʃ	ʃutʃ
193	stool	ojdé	ojdé
261	straight	súure	súure
240*	sun	awá	awá
16	sweat	pogólo	pogólo
190	sweep, she sweeps	úʃ'okoine/píttokoine	úʃ'okoine/píttokoine
164*	swim	daakáɖɖakoine	daakáɖɖakoine
134*	tail	natsé	natsé
185	take, he takes	éɸakoine/ékkakoine	éɸakoine/ékkakoine
125	teach, he teaches	támarsakoine	támarsakoine
25	tear	áaɸunts	áaɸunts
105	ten	támmu	támmu
141	termite	haráɖɖo	haráɖɖo
142	termite hill	haráɖɖo keets	haráɖɖo keets
286	that	si	si
313	they	úsuna	úsuna
267	thick	órde	órde
38	thigh	magaté	magaté

⁴⁰ガンジュレ語で「細長い」の意。

No	English	Ganjule	Gats'ame
268*	thin	láale	láale
109	think, he thinks	ts'úmakoine	koppákoine ⁴¹
285*	this	haa	haa
49	thorn	anké	anké
166	thread	k'af'ína	k'af'ína
98*	three	háǰǰi	háǰǰi
253	throw, he throws	antsákoine ⁴²	antsákoine
226	thunder	diidúnts	diidúnts
167	tie, he ties	af'ókoine ⁴³	af'ókoine
65	tobacco	tambó	tambó
14*	tongue	unts'úre	unts'úre
13*	tooth	gággo	gággo
50*	tree	mits	mits
106	twenty	nam [?] útammu	nam [?] útammu
97*	two	nám [?] u	nám [?] u
283	up	wok ⁴⁴	wok
87	vomit, he vomits	ǰ'óǰokoine	ǰ'óǰokoine
121	walk, he walks	hántakoine	hántakoine
183	want, he wants	worgókoine	worgókoine
255	war	óla	óla
320*	warm	mítǰa	mítǰa
231*	water	waats	waats
311*	we, exclusive	nuná	nuná
112	wedding	diggíse/sáрге ⁴⁵	diggíse/sáрге
68	weed	hóode	hóode
24	weep, he weeps	jéekakoine	jéekakoine
232	well	púlto	púlto
297*	wet	tóǰja	tóǰja
289*	what	áaluma	áalama
290	when	ájde	ájde
292	where	aná	aná

⁴¹ ウォライタ語の影響と思われる。

⁴² 他に 'ts'óngokoine' は「槍を投げる」、'ólakoine' は「下に投げ捨てる」の意。

⁴³ 'af'úttokoine' という {-utt} が付いた形も許容される。

⁴⁴ 'wok' は「山の上」の意。また 'aǰá' は「空」の意であるが、単に「上」を表すこともある。

⁴⁵ どちらもアムハラ語からの借用語。

No	English	Ganjule	Gats'ame
8	whistle, he whistles	wík'okoine	wík'okoine
241*	white	boots	boots
287*	who	óoneja	óoneja
288	whose	óonesia	óonesia
295	why	áalasia	áalasia
259	wide	páttfa	páttfa
114	wife	máttfo	máttfo
221	wind	agétts	agétts
154	wing	pangé	pangé
110*	woman	bíjfo	bíjfo
138	worm	guts'úme	guts'úme
306	yawn, he yawns	ǰáuntokoine	ǰáuntokoine
245	yellow	bulbúla ⁴⁶	biǰ'a ⁴⁷
277	yes	aadéko	likkeko ⁴⁸
291	yesterday	k'ámmu	zine
312*	you, pl	ínina	ínina
309*	you,sg	nená	nená

⁴⁶'bulbula' という木に実るフルーツが黄色い色をしている。

⁴⁷アムハラ語からの借用語。

⁴⁸アムハラ語からの借用語。

略号 (Abbreviations)

1SG	「1 人称单数 ('first person singular')」
1PL	「1 人称複数 ('first person plural')」
2SG	「2 人称单数 ('second person singular')」
2PL	「2 人称複数 ('second person plural')」
3SG.M	「3 人称男性单数 ('third person masculine singular')」
3SG.F	「3 人称女性单数 ('third person feminine singular')」
3PL	「3 人称複数 ('third person plural')」
SG	「单数 ('singular')」
PL	「複数 ('plural')」
DEF	「定 ('definite')」
NOM	「主格 ('nominative')」
ACC	「对格 ('accusative')」
DAT	「与格 ('dative')」
ABL	「奪格 ('ablative')」
INSTR	「具格 ('instrumental')」
POSS	「所有 ('possessive')」
REF	「再帰 ('reflexive')」
PRES/IMPF	「現在 ('present') あるいは未完了 ('imperfect')」
PST/PF	「過去 ('past') あるいは完了 ('perfect')」
INF	「不定形 ('infinitive')」

【参照文献】

- Bender, M.L., J.D.Bowen, R.L.Cooper and C.A.Ferguson (eds.) (1976) *Language in Ethiopia*. London: Oxford University Press.
- Brenzinger,M. (1999) *The "islanders" of Lake Abaya and Lake Chamo: Harro, Ganjule, Gats'ame and Bayso. SIL Electronic Survey Reports 1999-003* (<http://www.sil.org/silesr/1999/003/brenzin5.pdf>) Summer Institute of Linguistics.
- Fleming, H.C. and M.L.Bender (1976) 'Cushitic and Omotic,' In: M.L.Bender, J.D.Bowen, R.L.Cooper and C.A.Ferguson (eds.), 34-53.
- 乾 秀行 (2004) 「ガンジュレ人の言語使用」『一般言語学論叢』7, 73-93.
- Siebert,R. and L.Hoeft. (2002) *Sociolinguistic Survey Report of the Languages of the Abbaya/Chamo Area of Ethiopia Part I. SIL Electronic Survey Reports 2002-025*(<http://www.sil.org/silesr/2002/025/SILESR2002-025.pdf>) Summer Institute of Linguistics.